

題目 富の分配に関する一考察

—現状認識と予想所得が理想的な分配判断に与える影響の検討—

氏名 瀧本直哉

指導教官 亀田達也

生物にとって、体サイズは適応度に影響を及ぼす重要な要素である。Risk-Sensitive Foraging Theory によると、体サイズの大きな生物は小さい生物に比べ食物を得ることのコストが小さいため、ハイリスクハイリターンな採餌行動をとりやすいと考えることが出来る (McNamara & Houston, 1992)。人間社会においては、「三高」という言葉が流行したように、身長の高さは社会的成功においても重要な要素のひとつであると考えられている。

これまでの研究によれば、身長の高低は人の心理・行動に少なからぬ影響を与えることが指摘されている。例えば、身長が高いほど所得が高いという関係が様々な国で見られることが知られている (Judge & Cable, 2004)。また Case & Paxson (2006) によると、背の高い子供は認知能力が高いという。前述の Risk-Sensitive Foraging Theory から考えると、高身長の方は、意思決定の際にハイリスクハイリターンな選択をとることができる。つまり高身長の方ほどリスク志向性が高いことが示唆される。その結果、高身長の者ほど人生の様々な選択場面においてハイリスクハイリターンの選択を行うため、結果として職業選択、学業レベル等、社会的分配場面における選好など様々な領域において身長の高低の効果がみられるのではないだろうか。実際、Dohmen, Falk, Huffman, Sunde, Schupp, & Wanger (2011) によると、身長とリスク志向性には、正の相関がある。一方でリスク志向性が高い人は、分配状況において平等主義傾向が低いことがわかっている。

このような背景を受けて本研究では、身長とリスク志向性の関連を明らかにし、それが偏差値や期待所得階層に影響を与えるかどうかを検証することを目的とし、大学生 (882名) を対象にインターネット上で質問紙調査を行った。

調査の結果、男性において身長と偏差値の間に有意な相関がみられた。また、男女ともに身長が高いほど、将来自分の所属する所得階層が裕福な階層になるだろうと期待していることがわかった。そこで、現在の家庭の階層、リスク志向性や Big-Five などのパーソナリティ特性、中学高校時代の経験を考慮に入れた重回帰分析を行ったところ、男性では依然として身長の効果は有意に残った。今回の調査対象者の大半は身長と所得の相関関係は知らないはずである。それにもかかわらず、身長が高い男子学生が、将来高い所得を得るだろうと「予想」をしていたことは、重要な知見を含むと考えられる。また、この点はリスク選好や偏差値などの学力水準、親の所得水準のみでは説明できないことが本研究で明らかになった。今後の研究では、どのようなメカニズムでこうした期待が生み出されているのかを検討することが強く望まれる。